

令和5年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

| | |
|------|------------|
| 学校番号 | 37 |
| 学校名 | 富山県立石動高等学校 |

| | | | | |
|------------------------------|---|------------------------|---------|--------|
| 学校の現状と課題 | 普通科と商業科の教育力を生かし、地域社会を担いグローバルな社会で活躍できる人材育成を目指している。広域から通学する生徒たちに、本校の立地する地域の豊かな自然と歴史的な特色への理解を深めさせ、課題を持って主体的・積極的に物事に取り組み、自ら解決する力を育成することが課題である。また、ICTを活用した学習教材の作成や生徒の成長を促す評価を行うために、さらなる教員の資質向上を図る必要がある。 | | | |
| テーマ(特色) | ① 地域と連携した探究活動の推進 ② ICTを活用した効果的な授業設計と学習評価の推進 | | | |
| 設定した「テーマ」の達成状況 | ① 地域と連携した探究活動の推進 ・1年の「総合的な探究の時間」において、大学から講師を招聘し、探究活動の実践例をもとに課題の設定の仕方や研究の手法、発表の仕方等について学ぶ「探究力アップ講座」を行った。多様な手法を学び、実践したことで、次年度の活動に繋がる成果を得ることができた。また、地域で活躍する社会人を講師として招くことで地域連携を深めるとともに、多くの視点から地域の課題を考える機会となった。 ・商業科の「課題研究」において、地域に関連した課題を設定し、地域と連携し探究活動を行った。12月には、地域と連携した活動内容や成果の発表会を行った。 ② ICT活用 ・タブレット端末の使用についての研修やGoogle Classroomを用いた研修を行った。 ・互見授業や授業研究会において、ICTを用いた授業設計を行い、実践した。実践後は、教科内で協議し、成果と課題を共有した。 | | | |
| 実施内容 (具体的に記入する) | ① 地域と連携した探究活動の推進 ・本校では2年生の「総合的な探究の時間」において、グループ研究を行っている。次年度は、地域に関連した課題を設定し、地域と連携した探究活動をテーマにしたいと考えている。今年度は、次年度に繋げる活動として1年生を対象に大学から5名の講師を招聘し、探究活動の実践例をもとに課題の設定の仕方や研究の手法、発表の仕方等について学ぶ活動を3回行った。1回目は課題の設定の仕方や探究活動の手法について学んだ。2回目はテーマに沿って個人で考えをまとめ、グループでお互いの考えをシェアし、まとめる活動を行った。アンケートの作成や結果の分析の仕方についても学んだ。3回目は発表の仕方を学び、実際に多様な手法を用いての発表の仕方を体験した。また、地域で活躍する社会人を6名招聘し、多くの視点から地域の課題を考える講座も実施した。 ・商業科の「課題研究」では、地域や日常生活の中から課題を見つけ、探究活動を行っている。今年度は、「冷凍弁当ミールキット」「ハトムギの活用法」「小矢部市の蜂蜜を広めたい」等をテーマにグループで探究活動を行った。学校周辺の飲食店やりんご園、養蜂園を訪問し、直接担当者から話を聞いたり、意見交換を行った。12月には、ハトムギの活用法を調査研究した班が、「おやべの小さなビストロマルカッサン」と共同開発したデザートをお店に訪れた客に提供した。 ② ICT活用 ・タブレット端末を用いた授業の教材や家庭学習の課題について各教科で情報を共有し、作成や実践を行った。互見授業や授業研究会(6月と10月に実施)では各教員がICTを積極的に活用した授業計画と実践を行い、多くの教員が参観し、教科を超えた意見交換を行った。 ・ICTを活用した評価については、現在は教科や個人で取り組んでいる段階である。個々の成果と課題を共有し、今後も研究を継続し、ICTを用いた評価を推進していきたい。 | | | |
| 取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から) | ① 地域と連携した探究活動の推進 ・1年の「総合的な探究の時間」では、大学から5名の講師を招聘し、探究活動の実践例をもとに課題の設定の仕方や研究の手法、発表の仕方等について学び、体験した。生徒は実際に体験することで、探究活動を理解し、探究活動に対する意識も向上した。 ・商業科の「課題研究」では、設定した課題についてグループで協働的に探究活動を進め、課題についての解決策を提案した。地元の特産品の商品化をおこなう活動では、地元の飲食店やりんご園、養蜂園等の協力を得るなど、地域連携にも積極的に取り組んだ。 ② ICT活用 ・各教員が各教科・科目の学習において、生徒が主体的、協働的に学ぶことができるような教材研究と授業改善を積極的に進めた。その際にタブレットや教育用クラウドサービスを用いることで、より効果的に学習を行うことができるような工夫を行った。教材作成や授業展開について、教科を超えた教員同士の意見交換を行う姿も多く見られた。 | | | |
| 対象者(学年・人数など) | 全学年470名、教員40名 | | | |
| 実施実績 | 4月 | ②ICTを用いた授業設計と実践 | | |
| | 5月 | ①地域と連携した総合的な探究の時間・課題研究 | 教員用講習会 | |
| | 6月 | | 互見授業 | |
| | 7月 | 商業施設での校外探究活動 | 教員用講習会 | |
| | 8月 | | | |
| | 9月 | | | |
| | 10月 | | 授業研究会 | |
| | 11月 | 地域の課題を探る講座 | | |
| | 12月 | ①大学教授による探究活動講座 | 課題研究発表会 | 教員用講習会 |
| | 1月 | ↓ | | |
| 2月 | | | 教科別研究会 | |
| 3月 | | 総合的な探究の時間まとめ発表会 | | |